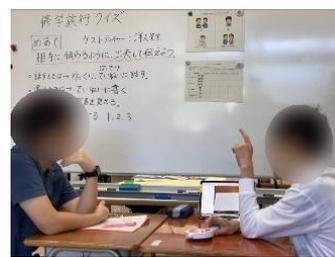


相手に伝える方法を自分で選択して、伝えられるようにする授業					
学校種	特別支援学校	学年	高等部 2年	障がい種	知的障がい
対象の児童生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな人と話したいという本人の思いがあり、慣れている人には積極的に話しかけることができる。</li> <li>・発音の不明瞭さにより、相手に言葉が伝わりにくく、場合によってはコミュニケーションが成立しないことがある。</li> <li>・言葉で伝わらないときは、ジェスチャーや書字等で伝えようとするができるが、場面や相手に応じて伝える手段を自分で判断することは難しい。</li> </ul>				
短期目標	様々なコミュニケーション手段を増やし、自分でコミュニケーション手段を選択することができる。				
必要な項目の選定 (6区分27項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理的な安定 (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲</li> <li>・コミュニケーション (1) コミュニケーションの基礎的能力 (2) 言語の受容と表出 (4) コミュニケーション手段の選択と活用 (5) 状況に応じたコミュニケーション</li> </ul> <p>※ これらの内容を関連付けて設定した指導内容のもと、以下の指導を実施した。</p>				
具体的な指導内容	相手に伝える方法を自分で選択して、伝えられるようにする(音声言語、書字、動作、タブレット端末など)。				
単元(題材)名	「いろいろな先生と話そう～修学旅行クイズ大会～」	指導形態	個別		
単元(題材)の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に伝わるようにクイズを出題したり、相手と会話をしたりできる。</li> <li>・相手の反応を見て、伝える手段を自分で考えて選択できる。</li> </ul>				
単元(題材)の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 1学期の活動を振り返ろう</li> <li>② 先生と会話をしよう～修学旅行で楽しみなこと～</li> <li>③ 先生と会話をしよう～修学旅行クイズ大会～</li> <li>④ 活動の振り返りをしよう</li> </ol>				
指導の実際	<p>【かかわりが少ない教師との活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○会話を通して、言葉だけでは相手に伝わりにくいことを実感し、伝える方法を教師と一緒に考えた。</li> <li>○修学旅行クイズの学習では、相手に伝わる安心感と自信をもつことができるように、タブレット端末に問題を表示し、相手に見えるように提示した。</li> <li>○相手にどれだけ伝わったかを自己評価し、同時に他者評価を受ける学習をした。</li> <li>○話す相手に合わせて、自分ができる手段(字を書く、ジェスチャー、タブレット端末の使用)を自己選択して伝える活動を行った。伝わる安心感のある中で教師とやりとりを楽しめるようにした。</li> </ul> <p>＜生徒の変容、考察＞</p> <p>当初は、コミュニケーションについての不安や自信のなさから、相手に伝わらないと諦めてしまう様子が見られたが、相手に伝わったという経験を積み重ねたことで自信が付き、「もっと話したい、伝えたい。」という気持ちが育まれた。このことにより、相手から聞かれたことに対して、適当な画像を探して提示したりジェスチャーをしたりするなど、伝え方を工夫する姿が見られるようになった。タブレット端末を有効に使うことで伝わることを実感し、自己評価が上がったことで、かかわりが少ない教師にも積極的に話す姿(※1)が見られるようになった。コミュニケーション手段が広がり、伝える選択肢が広がったためと思われる。</p>				



＜伝える手段の一覧＞



＜※1 積極的にクイズを出す様子＞